

< あなたの治療について >

血内 - DRVd (9C 以降) - MM - q4w (移植非適応)

今回の治療は、DRVd という治療法で、ダラキューロ (Dara) という注射薬とレナリドミド (LEN) とレナデックス (DEX) という内服薬を併用して行います。ダラキューロ、レナリドミドは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。レナデックスは副腎皮質ステロイドですが抗腫瘍効果があり、また、前記の薬と併用して治療を手助けする大事な役目をはたしています。3つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

◎治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間で1コースとなっています。各コースの1日目にダラキューロの皮下注を行います。レナリドミドを1～21日目、レナデックスを1、8、15、22日目に服用します。この治療を4週間(28日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～7日目	8日目	9～14日目	15日目	16～21日目	22日目	23～28日目
①	レナリドミド (抗がん剤) 25mg/day	内服							お休み	
②	レナデックス (ステロイド)	内服		お休み		お休み		お休み		お休み
③	レスタミン アセトアミノフェン (熱・アレルギーを 抑える薬)	内服		お休み						
④	ダラキューロ (抗がん剤) 15mg/body	皮下注								

★ 注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。

◎起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

レナリドミドとダラキューロによる

●好中球減少、貧血 ●便秘 ●インフュージョンリアクション ●感染症 ●疲労

◎特徴的な副作用について

レナリドミドにおける

●疲労、めまい、傾眠、霧視

* 自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事しないよう注意すること。

●甲状腺機能低下症

「疲れやすい、まぶたが腫れぼったい、寒がり、体重増加、いつも眠たい、便秘、かすれ声、脱毛」などの症状

●腎障害

「尿量が減る、むくみ、体がだるい、高血圧」などの症状

●腫瘍フレア

「疼痛、発熱、皮疹等を伴ったリンパ節の腫れ」などの症状

ダラキューロにおける

●インフュージョンリアクション

「アナフィラキシー、鼻閉、咳嗽、悪心、気管支痙攣、低酸素症、呼吸困難」などの症状

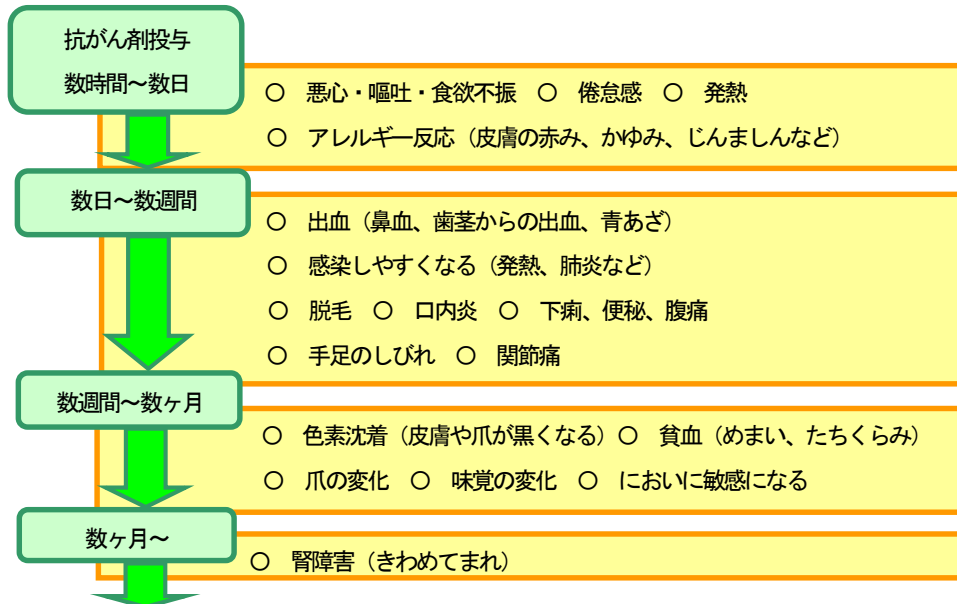
*** 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

◎副作用の発現時期の目安

* この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【レナリドミド】

〔骨髄抑制〕全身倦怠感、発熱、歯ぐきの出血

〔深部静脈血栓症、肺塞栓症〕急激な手足の腫れ・痛み・しびれ・発赤、呼吸困難、胸痛

〔脳梗塞、一過性脳虚血発作〕しびれ、頭痛、言語障害

〔過敏症〕呼吸困難、目や口唇周囲の腫れ、蕁麻疹

〔皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症〕発熱、眼出血、紅斑・水疱

〔心筋梗塞、心不全、不整脈〕急激な前胸部の圧迫感、息苦しさ、失神

〔進行性多巣性白質脳症（PML）〕意識障害、認知障害、麻痺症状（片側または両側の手足のまひ）、言語障害

〔間質性肺疾患〕発熱、から咳、呼吸困難

【ダラキューロ】

〔インフュージョンリアクション〕アナフィラキシー、鼻閉、咳、寒気、息切れ・息苦しい、吐き気、発熱、かゆみ、めまい

〔骨髄抑制〕発熱、血便・血尿、あざ、出血しやすい

〔感染症〕発熱、咳、痰、息切れ、食欲不振、全身倦怠感、吐き気、嘔吐、黄疸

〔腫瘍崩壊症候群〕尿が少なくなる・血尿、意識がうすれる、けいれん

〔間質性肺疾患〕発熱、から咳、呼吸困難、疲労

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。